

短歌の表現を味わおう

～テキストから情報を取り出そう～

国語 第2学年

加賀市立錦城中学校

1 事例の概要

本校は「確かな学力」としての「生きる力」の育成をめざした研究を、ここ10年続けている。従来の「基礎・基本」を大切にした授業づくりに加え、近年は生徒達がこれまで学び、身につけてきた知識・技能を活かして課題に取り組む授業づくりにも取り組んできた。

そのような授業を目指すために、今年度は「PISA 型読解力」を視点とした授業づくりに全教科で取り組んでいる。

国語科でも、「PISA 型読解力」が求める様々な力の育成のためにどのような学習活動が考えられるのかを教科部会で検討しているが、まずは生徒が「書かれている文章」から「情報」を正確に取り出せることが必要であると考え。そのため、根拠に基づき考えや意見を発表する活動を積極的に取り入れている。

A-1 学校研究

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ① 短歌への興味・関心を持ち、表現の豊かさを味わう。
- ② 短歌に用いられている言葉から情景や心情を読み取ることができる。

(2) 指導上の工夫点

- ① 指導法の工夫
 - ・短歌や俳句に苦手意識を持つ生徒は意外と多いので、導入に沓冠の歌など言葉遊び的な短歌を紹介することで、短歌への興味・関心を持たせるようにした。
 - ・短歌をすらすらと正確に暗唱できることが、内容理解への第一歩ととらえ、全員が暗唱できることを目標とした。その方法として、初句から結句までを別々にカードに書いたものを黒板に貼っておき、全員で音読させ、次に結句のカードだけを外して全員で音読させ、さらに四句めのカードを外し音読、という風に徐々にカードを外すことで、音読から暗唱へと切り替えていった。
- ② 「PISA 型読解力」の視点から
 - ・短歌の情景を各自が再構築する際に、漠然としたイメージではなく、短歌に用いられている言葉に根拠を求められるような発問を中心として授業を組み立てた。また、答えをノートにまとめる際には、そう考えられる根拠も書くように指導した。（「情報の取り出し」）
 - ・短歌の語句やリズム、表現上の工夫を見つけ、短歌のPRを書く活動を取り入れた。

（「熟考・評価」）

B-1 指導・評価計画

3 指導の実際

学習活動	指導上の留意点	評価（観点・方法等）
<ul style="list-style-type: none"> ・北原白秋の短歌の音読練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・暗唱できるよう、カードを使用する。 ・しっかり声を出している生徒を誉め、音読しやすい雰囲気を作る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・季節はいつですか。時間帯はいつですか。 ・話者はどこにいますか。 ・話者はどんな体勢で色鉛筆を削っているのですか。 ・話者の目に一番強く映っているものは何ですか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・短歌に表現されている情景を読み取る。 ・根拠もノートにまとめるよう指示する。 ・考えのまとまらない生徒には、アドバイスをします。 	<p>【①関・意・態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しっかりと声を出し、音読をしている（観察） <p>【④読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用いられている言葉をもとに短歌の情景や心情を読み取っている。 (発言・ノート)
<ul style="list-style-type: none"> ・短歌のPRを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視点（表現上の工夫・リズムなど）を持たせ、考えさせる。 	

C-1 指導案

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 一斉音読を繰り返し行うことで、音読練習に対する抵抗感が無くなり、その他の教材においてもスムーズに音読練習に取り組むようになった。
- ② 短歌の言葉から、直接は書かれていない「情景」を考えることで、テキストを「解釈」する力を育成する授業づくりができた。
- ③ 短歌の言葉に根拠を求めて考えることで、「なんとなくそう思った」という曖昧な答えや直感に頼った答えが激減した。また、他の文学的な文章教材においても、叙述に根拠を求めて考える姿勢が見られるようになった。これは、テキストから「情報を取り出す」力が育ちつつあると言える。
- ④ 対立する意見が出た時に、相手の根拠のもろさを指摘する意見が出るなど、「考える」楽しさを味わうことができた。

(2) 課題

「読解力」の育成を考える時、どのような学習活動が求められるのかを、授業者が明確にして授業を組み立てることが重要である。そのためには、「読解力」という言葉で括られている個々の能力を明らかにし、「どの単元（教材）で、どのような能力を」育てられるのか、教科として共通の理解を持たなければならない。とともに、その手段としての学習活動や発問を磨き上げる必要がある。その観点からは、本時の授業はまだ満足のものではないし、本校の国語科としての指針も明確なものではできていない。まずは「読解力」を年間指導計画に位置づけ、国語科としてどのような能力を育てるべきなのかを再検討していきたい。